

第4回在宅医療・介護連携推進のための 多職種研修会が開催されました

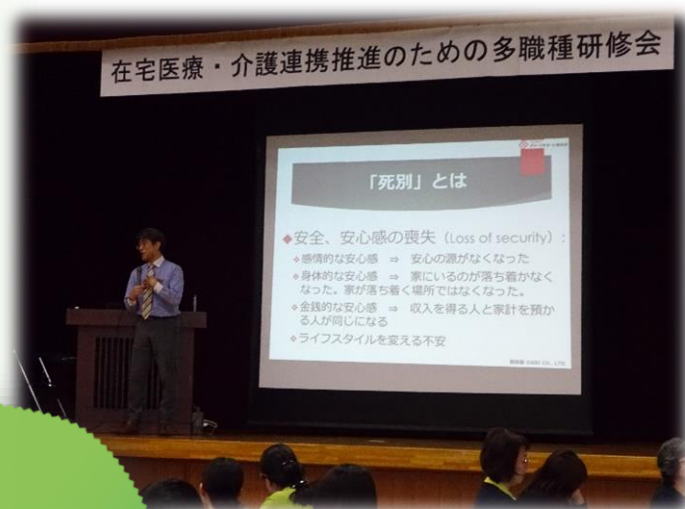
令和元年9月26日（木）に第4回在宅医療介護連携推進のための多職種研修会を医師会館講堂にて開催いたしました。『グリーフサポート～深い悲しみにある人を支えたい～と
思っているあなたに』というテーマで93名の多職種の皆さんのご参加を頂き、大変有意義な
研修会となりました。

参加職種別では介護支援専門員 27
名、看護職 19名、介護福祉士を含む
介護職 14名、薬剤師 7名、リハビリ
職 4名、ソーシャルワーカー 4名、
歯科医師 3名、管理栄養士、歯科衛
生士他、計 14 職種の参加がありまし
た。


講師は一般社団法人グリーフサ
ポート研究所の代表理事、橋爪謙一
郎氏でカウンセリング、グリーフサ
ポート事業として、企業の人材教育、
コンサルティング、一般、専門職セミ
ナー、講演活動など、全国で活躍して
いる先生です。



講 師 一般社団法人グリーフサポート研究所
代表理事 橋爪 謙一郎 氏



講演の内容を一部紹介します。
グリーフとは「何かを喪失した
時、心の中で起こっていること」。
喪失とは「大切な人や自分の身
体や物（所有物）あるいは地位、
役割等の抽象的なものを失うこ
と」です。例えば、喪失体験とし
て、自分と関わりの深い人が亡
くなった時、心の中で何が起こ
っているのでしょうか？
「自分らしさ」は周囲との関係
で作られています。大切な人と



いと安全であり、安心感もある。“大切な人を失うこと”それは同時に「自分らしさ」をも失ってしまうことです。そのため、もぎ取られたものを取り戻そう、埋めようとして頑張ってしまうから、自分を見失い、心がグラグラになってしまう。そんな湧き上がってくる感情を必死に閉じ込めようとして、心にフタをする。そんな状態を『グリーフ』といいます。

グリーフサポートとは、その人が抱え込んでいた感情や思い・考えを「自分らしく」表現できるように寄り添い、支えることです。

講演の途中、グループ内で、これまで関わった方のグリーフサポートやご自身のグリーフの体験などフリートークの時間があり、より実感として理解を深めることが出来ました。

研修会終了後、退場する参加者の皆さんがとても、柔らかい、優しい表情をしていたことが印象的でした。

研修会終了後のアンケートからは「今までグリーフというと亡くなる直前の話かと思っていました」「本人の心のフタが開けて信頼できるように支援に活かしたい」「グリーフサポートの視点を持つことで、より良い連携ができると感じました。この視点を同職種、他職種に伝えていきたいと思いました」などのお声がありました。アンケート結果をご覧ください。



※フリートークの様子
自分のグリーフ支援やグリーフ体験について

